

ITリソースと運用業務のさらなる効率化! クラウドコンピューティング時代のビジネス環境を 支え続ける「JP1」の機能強化版をリリース

ITリソースの有効活用やコスト削減を目的に、仮想環境の導入を推進する企業が増えています。

所有から利用への流れが加速し、サーバ統合からプライベートクラウドによるITリソースプール化が進展する一方、運用管理の現場では、ますます複雑化するITリソース運用や、集約によるサービスレベルの低下といった新たな課題が浮上してきました。そこで日立は、クラウド時代のIT投資の全体最適化を支援する統合システム運用管理「JP1 Version 9」(以下、JP1 V9)に、これらの課題解決を支援する新機能を追加したJP1 V9.1をリリース。クラウド環境におけるITリソースのさらなる効率化と、利用者も含めた運用業務の効率化により、お客さまのビジネスに新たな価値を創出していきます。

新たな課題の解決を図る新機能を追加

仮想環境の導入を推進する企業が増える中、JP1 V9は、一段と大規模化・複雑化するシステムに対し、より柔軟な運用と効率的でシンプルな操作を実現するFlexible & Smartをコンセプトに、お客さまのIT投資の全体最適化を支援する幅広い機能を提供しています。

一方、さまざまな企業において仮想化の適用範囲が急速に拡大したことで、ITリソースプール運用の複雑さが招く運用負担とコスト増、業務が集約されたがゆえのサービスレベルの低下など、新たな課題が浮上してきました。そこで、今回リリースするJP1 V9.1では、これらの課題を解決するため、従来から追求してきたITリソースの効率化と運用業務の効率化を一段と推し進める機能強化を実施。お客さまのコアビジネスへの集中と、さらなるコスト削減を強力にサポートしていきます。

ITリソースの効率的な利用をワンストップで支援

ITリソースのさらなる効率化に向け、JP1 V9.1では、ITリソース管理「JP1/ITRM^{※1}」と、構成管理「JP1/IM - UCMDB^{※2}」という2つの新製品を投入。ITリソースプールの効率的な利用と、ますます複雑化するシステムの運用負荷軽減を支援します。

※1 JP1/IT Resource Management

※2 JP1/Integrated Management - Universal CMDB

統一的操作で計画的・効率的なITリソース配備を実現するITリソース管理「JP1/ITRM」

New!

大規模・複雑化したITリソースプール運用では、「リソースの検索や予約に複数のツールを使い分けるのが大変」「中長期で必要となるリソース保有量がわからない」「リソースの追加・変更にもなうインストールや設定作業が面倒」といった、さまざまな課題が浮上しています。

クラウド環境で共有化されたITリソースプールのさらなる効

率運用を図るには、複数の仮想化ソフトウェアやOS、ハードウェアが混在するヘテロジニアスな環境(異種混在環境)を横断的に管理する機能が不可欠です。そこでJP1/ITRMは、これらの課題を1つのツールでワンストップに解決。空きリソースの確認からリソース予約、サーバの配備、使用実績の確認と見直しといった運用サイクル全般にわたる作業を統一したオペレーションのもと、エージェントレスで一元管理。運用負荷の軽減とITリソースのさらなる有効活用を支援していきます(図1)。

★エージェントレスでITリソースの現状を把握

物理サーバ、仮想マシン、ネットワーク機器、ストレージといったITリソースをエージェントレスで自動検出し、構成情報を把握できます。新たなITリソースを検出すると、リソース使用量の実績記録を自動的に開始するため、管理者負担を大幅に軽減。また、物理サーバ、ネットワーク、SAN^{※3}、ストレージの接続関係やハイパーバイザーと、その上で稼働する仮想マシンとの関連付けを見やすくトポロジ表示できます。

※3 Storage Area Network

★ITリソースの予約状況を一覧表示

空きリソースの検索はもちろん、今後の予約状況も一目で把握できるため、「必要な期間」「必要な分量だけ」割り当てることができ、ITリソースのさらなる有効活用が図れます。

★ITリソースの割り当てにおける自動配備

予約に従い、ITリソースを自動配備できます。配備時には、CPUコア数、メモリーサイズ、ホスト名、IPアドレス、ネットワーク関連、認証情報といったプロビジョニングに必要な設定が自動化でき、運用負荷を軽減します。

★使用実績と利用計画に基づくITリソース保有量の把握

ITリソースの使用量にターゲットを絞った性能情報の収集機能で、ITリソースの使用実績と、今後の利用計画(予約状況)を合わせたトレンドを把握。中長期観点でのリソース削減・補充計画の立案に役立てることができます。

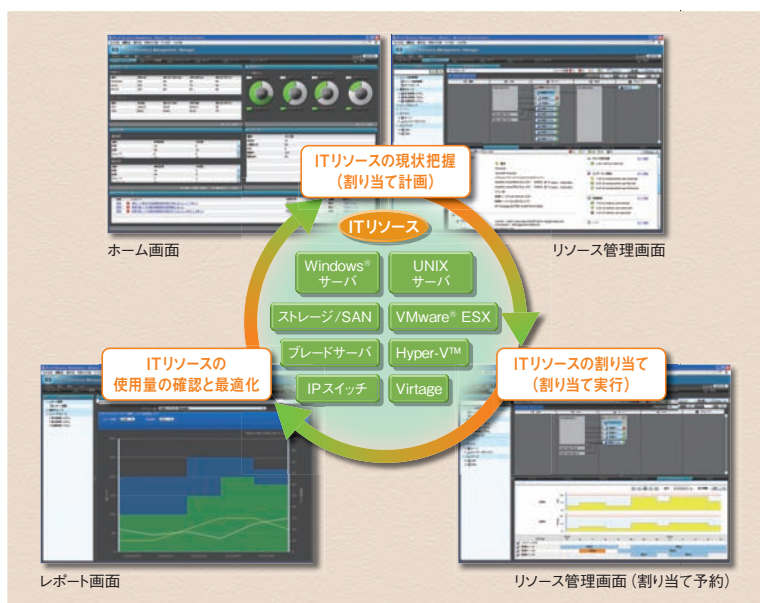


図1 JP1/ITRMのITリソース管理基盤

★さまざまな混在環境でもオペレーションを統一

Windows®、Linux、UNIXなどさまざまなOSに対応し、仮想化運用、非仮想化運用の混在環境もサポートします。VMware®、Hyper-V™の仮想化ソフトウェアに加え、日立サーバ仮想化機構「Virtage^{※4}」にも対応。これらの混在環境でも「仮想マシンの追加・削除」や「仮想マシンの移動」などを同一操作で行うことが可能です。

※4 Virtageは監視機能をサポート済。制御機能は今後対応予定

システム構成の可視化と変更の影響範囲を迅速・確実に把握する「JP1/IM - UCMDB」

ダイナミックに構成変更が行われる仮想環境では、変更による影響範囲の把握が難しく、関連図のメンテナンス作業などにも多くの時間が必要でした。そこで新たに提供するJP1/IM - UCMDBでは、システム全体の構成情報を、ジョブネット関連の構成を含めエージェントレスで自動検出。複雑・大規模なシステム構成を可視化し、正しく把握できるよう支援します。また、システム構成を変更する場合も、事前にハードウェアやソフトウェアの影響範囲を把握できるほか、変更履歴の管理も可能となります。

利用部門も含めた運用業務の効率化を実現

仮想化によるサーバ集約やシステム統合は、コスト削減やITリソースの効率化などに寄与する一方、運用管理部門と利用部門との間に物理的にも心理的にも距離ができてしまいます。例えば従来なら、「今日中に自部門の売上集計データが欲しい」と要請すれば、運用管理部門から柔軟に対応してもらえた

ケースでも、システムが集約されたセンター運用では「夜間バッチのため翌日にならないと結果が出せない」といったように、センター側が管理すべき対象範囲が広がるため、これまで個別に対応してきた業務も手間がかかり対応しきれないといった状況が出ているのです。

こうした仮想化集約によるサービスレベルの低下を防ぐため、JP1 V9.1では「JP1/AJS3 - UJO^{※5}」を開発。運用管理部門に加え、利用部門も含めた運用業務の効率化を支援していきます。

※5 JP1/Automatic Job Management System 3 - User Job Operation

■ 利用者が直接、業務を実行・監視できる 簡易ジョブオペレーション「JP1/AJS3 - UJO」

★必要に応じて担当者が現場で業務を実行・監視

業務システムの運用管理者が許可した範囲で、業務担当者（利用者）が直接、業務（バッチジョブ）を現場で実行・監視することができます。業務担当者の利便性が大幅に向上するほか、運用管理者への問い合わせも減少するため、本来の管理業務に注力していただけます。

★親しみやすく、わかりやすい画面を提供

業務担当者に提供される画面は、親しみやすいインターフェースで操作が容易に行えます。表示するジョブネットの階層を再構成したり、ジョブネットの名称を業務担当者が日頃使い慣れた用語に設定したりできるため、より使いやすい操作環境が実現できます（図2）。



図2 JP1/AJS3 - UJOの業務オペレーション画面例

以上にご紹介した新製品のほかにも、JP1 V9.1では、お客さまからいただいた各種のご要望に対応し、オートメーション/モニタリング/ITコンプライアンス/ファウンデーション各分野の製品において、さまざまな機能エンハンスを行いました。

クラウド時代のIT投資の全体最適化を支援するため、さらなる進化を遂げたJP1 V9.1。これからも日立は、仮想化によるコスト削減と運用管理の効率化を徹底的に追求し、お客さまのシステム運用を総合的に支援し続けていきます。どうぞご期待ください。

お問い合わせ先

HMCC (日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)
☎ 0120-55-0504
利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>